

## 社会経済的不安と健康志向との関連

—東北6県居住者対象の社会調査の分析—

○日本大学 三澤仁平

## 1 目的

現代日本社会は、多くの人びとが健康維持・増進に関心をもち、健康を志向している。公衆衛生や予防医学の観点からは、健康政策的展開の効果があつたと、この傾向は喜ばしいことと感ずることだろう。しかし、この健康維持・増進への関心や志向は、リスク社会という現代社会の特徴を反映して立ち現れている可能性に留意する必要があると思われる。つまり、リスク社会で生きていくことに多くの人びとが社会経済的な不安を覚える状況だからこそ、とりわけ社会的に脆弱な人びとにとっては、すがれるものは自身の身体、ひいては、寄る辺として健康に関心を持たざるを得ないのではないだろうか。これは、身体の医療化が生じている可能性を指摘することができよう。これまでに、社会経済的不安は健康不安の増大や主観的健康感の悪化と関連することが報告されているが、健康志向との直接的な関連は明確ではなかつた。リスク社会を背景とした社会経済的不安と健康志向との関連を明らかにすることは、現行の健康政策のあり方を問うことにほかならない。そこで本稿では、社会経済的不安と健康志向との関係を明らかにすることを目的とした。

## 2 方法

「医療・福祉と暮らし、人生観に関する意識調査」データを用いる。これは、2015年1～2月に東北6県に居住する20歳以上80歳未満の住民1,013名を対象に訪問留置法による統計的社会調査である。健康志向を目的変数とした一般化線形モデル（リンク関数はlogit）を男女別に実施した。健康志向は「自分がやりたいことがあつても、健康によくないと思ったら我慢してやらない」か「自分がやりたいことがあつたら、健康によくないと思つてもやる」のどちらの意見に近いかを問ひ、前者に近いければ、健康志向とした。説明変数として社会不安（あり／なし）、経済不安（あり／なし）を採用し、統制変数として健康不安（あり／なし）、主観的健康感（良好／不良）、性別、年齢、婚姻状況（既婚／未婚／離死別）、階層帰属意識（上位／中位／下位）をもちいた。分析には主要な変数に欠損がないサンプルを用いた（n=976）。

## 3 結果

対象者の基本属性は、女性52%、平均年齢51（±16）歳、既婚74%であつた。この対象者のうち、64%が健康を志向する意識をもつていた。社会不安、経済不安をもつ者はそれぞれ75%、79%であつた。一般化線形モデルの結果、男女ともに年齢に正の関連がみられた。負の関連がみられたのは、男性が階層帰属意識（下位）、女性が経済不安であつた。

## 4 結論

6割以上の対象者が健康を志向していた。社会経済的不安の中で健康志向に関連していたのは女性の経済不安のみであつた。しかも、経済的な不安を覚える女性は健康を志向するのではなく、むしろその逆の関係が明らかになつた。この結果は、女性の経済不安は、貧困から生じる健康影響といった本質的な問題にかかわる可能性が考えられるため、健康を維持・増進するという志向に結びつかなかつたためではないかと思われる。一方、男性は社会経済的不安というよりも、相対的な社会的地位の方が健康志向に関連していると考えられる。性別によって社会経済的不安による健康志向への影響が異なるため、男女の特性を反映した健康政策が望まれるだろう。本稿はJSPS科研費（24683018；26380736）、厚労科研費（H25-医療-指定-003（復興））の助成を受けた。報告すべきCOIはない。